

第2回かわさきコンパクト委員会 議事録

日 時：2013年7月1日（月） 13時30分～15時30分

場 所：川崎市役所第四庁舎第3会議室

出席者：〔委員〕庄司、瀧田、岩森、小倉、末吉

〔川崎市〕地球環境推進室

〔事務局〕一般社団法人CAT

1 開会

2 議題

(1) かわさきコンパクト申請事務について

市より、前回委員会での申請手続き見直しの提案により、秋の改定に向けて、かわさきコンパクト（以下KCと称する）の設計書の理念を踏まえたうえでいかに申請を簡素化するかの検討を重ねたことが説明され、事務局から申請書の改定案が提示され要点が述べられた。

<改定の要点>

- ビジネス・コンパクト、市民コンパクトともに継続申請手続きを省き自動継続とし、活動報告と次期計画の提出を促すこととし、変更が生じた場合は、適宜変更届を提出するようにした。
- ビジネス・コンパクトでは基本情報の記入項目の簡素化を図った。
- ビジネス・コンパクトに新規に参加する場合は従来の取組の記載をなくし参加年度の活動方針を記載するにとどめた。

申請書の改定内容について特に異論はなく承認された。秋からの運用をめざし、既に参加している企業団体に向けて一か月程度の事前告知を行い、それ以降に一般公開するという手順とした。

(2) 参加企業及び団体の継続状況について

事務局より、資料に基づき現在の継続申請状況について報告された。いくつか長期に亘って継続申請されていない企業、団体への対応について審議された。

- 2年間提出していない企業・団体に関しては、再度確認後に取下げの手続きをする。

- まだ1年を経過していない企業、団体に関しては、再度確認する。
- 解散した団体に関しては、取下げの手続きをする。
- 複数年度未提出でも提出は直近の年度報告で構わない、とする。

継続手続きが簡素化され、参加企業団体の負担が軽減することは予測されるとはいえ、この KC の認知を広げて参加を続けてもらうため参加の意義をどのように提供できるか、等について意見交換を行った。

- 数年間、この事業だけではなく他の事業でもいくつかの企業と関わりを持つ中で、CSR に関心を持って取り組み、市民がどのような活動をしているのか、それが自分たちの事業にどう結び付くかを考えている企業とそうではないところがはっきりしてきた。そうでないところは具体的なメリットが見えないと事務手続きを面倒に感じるのではないか。
- 行政のチャンネルで企業の取組を届けてくれるなど目に分かるところでメリットがないと積極的な参加というのは難しい。改定を機に参加のメリットを工夫して追加して出して KC の活性化を図ることが大事と思う。
- 企業も団体も子どもたちを対象にしていることが多い。子どもをキーワードに何か取り組みができないか。
- 企業の中には CSR の取り組みの広報ツールを持たないところもある。大企業でも全社的な取り組みはあっても川崎での取組に関してお知らせするものがない場合がある。そこを KC がお手伝いするなど後押しができるといい。
- 本庁の局長クラスと KC 参加企業との意見交換の場を設定する、市長と直に話すテーブルを設定するなど、ビジネスと行政との接点を KC がつなぐことができるといい。例えば、グローバルコンパクト（以下、GC）の理念を市民にどのように理解してもらうかなどを企業と行政が考える事は意味がある。可能性としてはいかがか。
- （市からの意見）まずは行政内部での KC の認知を広げることをしていきたいので、現在動きを作っている。8月6日14時から、市の職員向けに末吉参与による講演会を実施する。その中でグローバルコンパクトのことに加えて KC について話題に取り上げていただく。委員にはオブザーバー参加をしていただきたい。
- 入口を低くするとスリーピングの問題が発生するので、そのような組織を排除する方策も考えておいたほうがいい。
- 市民コンパクトとビジネス・コンパクトのチラシを作ったので、市内全域で配布したい。
- 活動実績のある団体に対して、市長からの参加のご案内といった手紙を出せないか。
- 年に数回のセミナーでは、国際、地域社会とかが絡めるようなテーマがない。年に

一回でも他分野テーマを取り上げれば、例えば外国人就労問題だったら経済労働局や市民・こども局といった局も巻き込むことができる。広げる手段として考えて欲しい。

- 市民コンパクトもメリットが見えない。文化系の団体は参加していて面白いと思えるものがないので声をかけにくい。
- コンパクトに参加したが、環境局が担当ということで自分たちの活動と合わないと感じる団体もあるようだ。しかし、環境だけが柱ではない。原則1~9を眺めるとあまねく行政の問題であることがわかる。行政が市民と企業の接点を作っていって欲しい。
- (市からの意見) 全庁的に”そもそもコンパクトとは”を考える動きを作っている。国際や労働など幅広い分野が対象であることを認知してもらって次のステップにつなげていきたい。
- 毎回のイベントの事前告知が遅い。クローズでやるわけではないのだから、一か月前には告知できるように進行して欲しい。
- イベント開催時は新聞記者に取材してもらおう。来なければ、こちらで記事を書いて、写真と記事を送るなど普段からの努力が大切である。

(3) その他

今後の事業日程について確認した。

- 8月6日火 14時から職員向け研修で末吉参与による講演会
委員にはオブザーバー参加をしていただきたい。詳細は後日配信する。
- 11月7日 セミナー交流会は子どもを素材にして、企業と団体を集めて意見交換したい。
- 11月8日 スマートライフスタイル大賞授賞式
環境局でいくつかの表彰制度があるが、その制度に乗じて受賞団体、企業に対して、申込書と返送用封筒を同封して郵送するのはどうか。過去の受賞企業などへもアプローチして欲しい。
- 1月25日土曜日 ボランティア市民活動フェア 中原市民館
- 2月14日金、15日土 川崎市国際環境技術展 等々力アリーナ

<参考資料として提出された新聞記事について末吉委員による意見>

現在社会では、貧困や社会の不公平感など様々な課題が蓄積されてきている。なぜこうなったか、経済の在り方が問題を引き起こしてしまったという認識で、経済の在り方を変えようという動きの中グリーン経済が叫ばれている。企業に行動を変えてもらうには、法律だけでなく企業評価としてもっと情報公開を進める、企業の情報開示を変えていこうという流れが主流になってきている。売り上げしか書いていない財務報告書だけでなく、環境報告書、CSR 報告書などを合わせた国際統合報告というものが出てきている。

企業評価について、いくつかのキャピタルを複数用意する、株式会社の資本金にあたるもの、それにヒューマンキャピタル（人材資本）ナチュラルキャピタル（自然資本）、その他にも7～8つの概念を取り込もうという戦略的な報告書の考え方が出てきて世界の主流になり始めた。企業の情報開示はこの流れで行くのではないかと考えられている。

売上、利益だけでよい企業を判断する時代ではない、川崎市がどういう企業にいて欲しいのか、トータルで評価の高い企業にいて欲しいのか。GC、KC を通じて市民に示す時である。

【事務連絡】

- 第3回 KC 委員会 10月9日水曜日の午前10時から
内容は、上期の報告書、及び後半事業について
- 交流会 11月7日 14時—17時